

村 長	副村長	課 長	係 長	課 員	担 当

報 告 書

項 目 北山地区 「みらいトーク！」 実施報告書

日 時 令和 8 年 7 月 6 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所 構造改善センター

事 務 局 総務企画課長、企画係長、穴戸、大内、佐藤（路） EY 小山

出 席 者 5 名

1 目的

令和 9 年度から始まる第 6 次総合振興計画の策定に向け、北山地区の現状や将来への不安、残したいもの、10 年後に向けて必要な取組等について意見を聴取するため、北山地区「みらいトーク！」を実施した。

2 実施概要

はじめに、村から第 6 次総合振興計画の策定趣旨や計画骨子の考え方について説明した。その後、参加者及び村職員が自己紹介を行い、地区との関わりや日頃感じていることを共有した。

意見交換では、北山地区のビジョンマップ（案）を活用しながら、残したいもの、大切にしたいもの、心配なこと、今後あったらよいものなどについて話し合った。また、付箋を用いて意見を出し合い、地図上の場所や地区全体の課題・希望と結び付けながら整理した。

3 主な意見

（1）人口減少・高齢化への不安

人口減少と高齢化により、行政区の運営、消防団、祭り、地域活動の担い手が不足していくことへの不安が共有された。また、高齢者や一人暮らし世帯の見守りを誰が担うのかという課題も挙げられた。

（２）生活利便性と交流の場

商店、食堂、コンビニ、昼食を食べられる場所、歩いて行ける居酒屋など、日常生活を支える小さな商業機能の充実を望む意見が多く出された。これは、買い物や食事の不安だけでなく、住民同士や来訪者が気軽に集まる場の不足とも関係している。

（３）飲食・交流拠点の可能性

昼は食堂、夜は居酒屋として使える場所、日替わりで店主が変わる店、地域の人に関わる共同食堂などのアイデアが出された。地元の米、野菜、アスパラ、山塩などを活用した軽食の提供も可能性として挙げられた。

一方で、採算性、資金、担い手の確保が課題であり、空き家・空き店舗の活用や起業支援と組み合わせた検討が必要である。

（４）子ども・教育・地域との関わり

子どもの数が減ることへの不安がある一方、少人数だからこそ一人ひとりに合った教育ができるのではないかと意見も出された。地域の人が幼稚園や学校に関わり、子どもたちに地域のことを伝える機会は、北山地区の強みとして捉えられる。

（５）自然・農・暮らしの魅力

田園風景、ホテル、自然環境、災害の少なさ、治安の良さなど、日常の中にある地域資源が挙げられた。一方で、商店や食堂、気軽に集まれる場所などは、今後さらに充実を望む声があった。

（６）空き家・空き店舗の活用

空き家・空き店舗は、飲食店、交流拠点、起業の場、移住者の受け皿として活用できる可能性がある。所有者と利用希望者の意向整理や、貸したい・借りたい・売りたい・買いたいをつなぐ仕組みが必要である。

4 総合振興計画への反映に向けた視点

- ・行政区、消防団、祭り、見守りなどを持続可能にする仕組みづくり
- ・買い物、食事、交流など、生活利便性を補う小さな拠点づくり
- ・空き家・空き店舗の活用と、起業・チャレンジを支える仕組みづくり
- ・少人数を生かした教育と、地域の人子どもに関わる機会づくり
- ・田園風景、ホテル、農産物など、地域資源の見える化
- ・若い世代や子育て世代が参加しやすい対話の場づくり

5 まとめ

今回の対話では、商店や食堂、気軽に集まれる場所、担い手不足、高齢化への不安など、北山地区で暮らし続けるうえでの課題が共有された。

一方で、田園風景、ホテル、自然の近さ、治安の良さ、少人数だからこそできる教育など、日常の中にある価値も確認された。

今後は、こうした地域資源を大切にしながら、買い物、食事、交流、移動、子育て支援などの生活機能を少しずつ高め、住民自身が地域の良さを実感できる地域づくりにつなげていく必要がある。

以上